

いざというときに

備える

今後予想される地震は

関東地方で、近い将来マグニチュード7クラスの「首都直下型地震」が起きるといわれているのをニュースなどで聞いたことがある方も多いのではないだろうか。

地震は一般的に、「海溝型（プレート境界型）」と「内陸型（直下型）」に分類されます。

「海溝型」は周期的に起こることから、ある程度予測が可能といわれています。関東地方においては、1923年に関東大震災が発生したため、まだ切迫性はないと考えられています。

一方、「内陸型」は、南関東でマグニチュード7クラスの地震が220年間で平均して27・5年に1回の頻度で発生しています。関東で

の発生確率は今後30年間で70%程度とされていることから、首都直下型地震を想定した被害の推定や対策が検討されています。

地震の特徴と備え

「内陸型」は、地震の規模は「海溝型」より小さいことが多いですが、人の住んでいる真下で起きるため、地震の揺れや被害は小さくありません。P波とS波がほとんど同時に来るため、緊急地震速報を聞いてから備えることができないという特徴もあります。

近年では、平成7年の兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）や、平成16年の新潟県中越地震、平成28年の熊本地震が「内陸型」に分類されます。

すぐにでもできる家の中の地震対策

● 家具転倒防止



● 家具配置の工夫



東日本大震災から10年。時間がたつにつれて、災害をおそれる気持ちも徐々に薄まってしまいます。災害で失う命をなくすために、この節目のときに、もう一度防災について考えてみませんか。